

科目名	家庭福祉論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	郡嶋かおる		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	児童・家庭の生活とニーズをとらえる。現代社会における家庭福祉の理念と意義を理解する。さらに、児童・家庭福祉に関わる法制度を理解し、相談援助活動の実際を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					家族援助の対象と役割について説明することができる。	
		○				家族の形態、機能、取り巻く地域社会について説明することができる。	
		○				虐待家族への支援について説明することができる。	
		○				児童福祉施設(養護系)における社会福祉士の役割について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	児童福祉施設実習について(希望調査票配布)			児童福祉施設について理解しておく		
	2	児童心理治療施設、乳児院、児童養護施設について			児童福祉施設について理解しておく		
	3	科目ガイダンス、家族援助が求められている背景と意義について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	家族の形態、多様化する家族			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	家族を取り巻く地域社会はどのように変化しているか			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	社会の変化と家族の変化			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	子どもを巡る諸問題とその背景			レポートの準備をしておく		
	8	児童虐待について			児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと		
	9	虐待家族に関わる機関・施設・サービス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	児童相談所について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	虐待家族への支援について① 子どもへの支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	虐待家族への支援について② 親への支援			レポートの準備をしておく		
	13	乳児院における家庭支援について			乳児院の復習をしておく		
	14	児童養護施設における家庭支援について			児童養護施設の復習をしておく		
15	母子生活支援施設における家庭支援について			母子生活支援施設について予習をしておく			
評価方法	(1)出席率(居眠りは欠課とする)。(2)授業態度。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	出席率						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	児童福祉論								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	郡嶋かおる		
実施年度	2019年		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年								
授業概要	児童・家庭の生活とニーズをとらえる。児童の権利保障の概念を理解する。さらに児童・家庭福祉に関わる法制度を理解し、相談援助活動の実際を学ぶ。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
		○				現代社会と子ども家庭環境について理解する。			
	○	○				子どもと家庭への援助活動の実際について考察できるようになる。			
		○				子どもと家庭かかわる福祉・保健活動を理解する。			
	○	○				これからの支援方法について述べるができるようになる。			
テキスト・教材 参考図書									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	はじめに : ソーシャルワークと子ども家庭福祉							
	2	1) 1~2 子どもの家庭福祉の理念と原理							
	3	1) 3~4 子どもと家庭 権利擁護と福祉の発展							
	4	2) 1~2現代社会と子ども・家庭とニーズ							
	5	3) 子どもと家庭福祉の法制度①							
	6	3) 子どもと家庭福祉の法制度②							
	7	3) 子どもと家庭福祉の法制度③							
	8	3) 子どもと家庭福祉の法制度④							
	9	4) 1~2 子どもの貧困防止/母子保健							
	10	4) 3 障害のある子どもと家族への支援							
	11	4) 4~5 児童健全と保育							
	12	4) 6~7 地域子育て支援とひとり親家庭の福祉							
	13	4) 8~9 社会的養護/非行児童・情緒障害児							
	14	4) 10~11 児童虐待対策/女性福祉とDV対応							
15	5) 1~3 子ども家庭福祉援助活動								
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○	○				100%		
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品								
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	社会学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松澤秀樹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	人と社会の関係や社会システムを理解し、現代社会の様相を捉える。また、種々の社会問題について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					現代の社会システムについて理解する。	
	○					現代の社会で起こっている課題について考察できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会学とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	家族の社会学				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	生活と社会				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	社会変動				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	人口と社会				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	コミュニティとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	社会システム(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	社会システム(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	社会的行為と社会的役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	社会集団と組織				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	社会関係資本と社会連帯				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	社会問題の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	日本社会と社会問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	共生社会と権利				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	社会学について(全体まとめ)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉施設経営論							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	百枝 孝泰	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年							
授業概要	福祉サービスの中核を担う専門職として必要な福祉サービスを提供する組織やその経営や管理についての基礎的な知識について理解する。							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	◎	○		◎		福祉サービスにかかわる組織や団体について説明できる		
	◎	○		◎		福祉サービスの組織と経営に関する基礎的な理論を説明できる		
	○	◎		◎		福祉サービスの管理運営法の基礎を説明できる		
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会 / 「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営 / 中央法規出版							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	福祉サービスにおける組織と経営(1)オリエンテーション						
	2	福祉サービスにおける組織と経営(2)						
	3	福祉サービスにおける組織と経営(3)						
	4	福祉サービスに関わる組織や団体(1)						
	5	福祉サービスに関わる組織や団体(2)						
	6	福祉サービスに関わる組織や団体(3)						
	7	福祉サービスに関わる組織や団体(4)						
	8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(1)戦略						
	9	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(2)事業計画						
	10	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(3)組織原則						
	11	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(4)管理運営の基礎理論						
	12	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(5)集団力学に関する基礎						
	13	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(6)リーダーシップ理論						
	14	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(7)リーダーシップ理論						
	15	振り返り						
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				80%	
	小テスト	◎	◎		○		5%	
	宿題・レポート	○	○		◎		5%	
	発表・作品				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	社会保障論					
科目名(英)	Social Security					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	林 孝和	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年					
授業概要	社会保障の概念や歴史、構造、財源や費用について講義を行う。また、高齢者の所得保障を目的とした年金保険制度を取り上げる。社会保障に関する新聞記事や最近の出来事を取り上げ、配布資料をもとに講義を進め、視聴覚教材を使用することによりさらに理解を深める。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				社会保障の目的について理解し、その概要を説明することができる。
	○	○				社会保障制度の体系を理解し、その課題について説明することができる。
	○	○				我が国の社会保障制度が整備された経緯・歴史を理解し、その概要を説明することができる。
	○	○				社会保障制度のメリット・デメリットを理解し、給付と財源のバランスを理解することができる。
○	○				年金保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 社会福祉士養成講座12「社会保障論」第6版</li> <li>中央法規出版 見て覚える！社会福祉士国試ナビ</li> </ul>					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	社会保障論とは何を学ぶのか、オリエンテーション				
	2	私たちを取り巻く社会保障とは何か、ライフストーリーを作りながら				
	3	社会保障が当面する課題1 少子化の原因と現代の若者が抱える課題				
	4	社会保障が当面する課題2 高齢化の原因と現代の高齢者が抱える課題				
	5	社会保障の理念と機能 どんな機能がリスクへの備えになるのか				
	6	日本の社会保障の歴史1 戦後から高度経済成長時代				
	7	日本の社会保障の歴史2 安定成長期からバブル景気平成不況へ				
	8	社会保障の仕組み 社会保険と社会扶助の違い				
	9	社会保障のメリット・デメリット 社会保険と社会扶助の特徴				
	10	社会保障の財源 保険料と税				
	11	年金保険制度の概要				
	12	国民年金制度 具体的なケースを参照しながら				
	13	厚生年金制度 具体的なケースを参照しながら				
	14	社会保障の財源をどこに 理想の形とは一体なにか				
15	総括・まとめ					
評価方法	(1)定期試験(マークシート、論述等)を実施する。(2)配布資料を提出させる。(3)授業内で発表させる。以下を下記の観点・割合で評価する。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	○	○			
	小テスト					
	宿題・レポート					
	発表・作品				○	
提出物				○		
履修上の注意	通年で出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	就労支援サービス						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	山下 雅弘		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年生						
授業概要	①相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 ②就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就労支援制度を理解する	
	○	○				社会福祉士としての役割が言える	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉養成講座 就労支援サービス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	働くことの意味と社会福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	雇用・就労の動向と施策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	障害者と就労支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	低所得者と就労支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	専門職の役割と実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	就労支援の連携と実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	さまざまな働き方の支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	まとめ、レポート作成について					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
20							
評価方法	宿題・レポートを数回実施する。定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				50%
	小テスト						
	宿題・レポート		○				50%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	地域福祉論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	15	担当者	大原朋子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	福祉現場において、マイクロ・メゾ・マクロの視点を持ち、個人の福祉課題を地域の福祉課題と捉えコミュニティソーシャルワークの実践につなげることのできる人材の育成を目標とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の発展過程について説明することができる	
		○				地域福祉の主体について学び、福祉教育の必要性と方法についての説明することができる	
	○					地域福祉実践における行政組織の役割について説明することができる	
	○					地域福祉実践における民間組織の役割について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座9「地域福祉の理論と方法」中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション					
	2	地域福祉の発展過程について					
	3	地域福祉の基本的な考え方「地域福祉の理論の発展、理念」					
	4	地域福祉の基本的な考え方「地域のとらえ方、地域組織の種類」					
	5	地域福祉の主体と福祉教育①					
	6	地域福祉の主体と福祉教育②グループワーク					
	7	地域福祉の主体と福祉教育②グループワーク、発表					
	8	行政組織と民間組織の役割と実際「行政組織」					
	9	行政組織と民間組織の役割と実際「民間組織」①グループワーク					
	10	行政組織と民間組織の役割と実際「民間組織」②グループワーク					
	11	行政組織と民間組織の役割と実際「民間組織」③発表					
	12	コミュニティソーシャルワーク①					
	13	コミュニティソーシャルワーク②					
	14	まとめ					
15	試験前オリエンテーション						
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		○		◎		20%
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。						

科目名	福祉事務所運営論											
科目名(英)	Welfare office management theory											
単位数	2		時間数	15		担当者	三谷 茂男					
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年											
授業概要	福祉事務所は、社会福祉法第14条に規定されている「福祉に関する事務所」をいい、福祉六法に定める援護、育成または更生の措置に関する事務を司る第一線の社会福祉行政機関です。福祉事務所の成立過程、福祉事務所の業務と組織、専門職と協力機関、社会福祉援助技術、法制度などを学び、福祉事務所の果たす役割を理解する。											
授業形式	講義:	○		演習:	△		実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					社会福祉実践の福祉事務所の歴史的意義を理解し、説明できる。						
	○					社会福祉実践機関の役割を説明できる。						
	○					社会福祉の法制度が説明できる。						
		○					社会福祉援助技術を理解し、社会福祉主事の倫理を理解する。					
テキスト・教材 参考図書	福祉事務所運営論(ミネルヴァ書房)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	福祉事務所の組織と運営					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	福祉事務所の成立と歴史的展開①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	3	福祉事務所の成立と歴史的展開②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	4	社会福祉の行政機関の役割					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	5	福祉事務所の業務と組織					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	6	福祉事務所と社会資源との連携					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	7	福祉事務所の運営と民生委員の役割					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	8	福祉事務所の専門職員					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	9	社会福祉主事の専門性と倫理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	10	社会福祉援助技術の展開①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	11	釈迦福祉援助技術の展開②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	12	福祉事務所をめぐる法制度①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	13	福祉事務所をめぐる法制度②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	14	自立支援の事例					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
	15	最近の政策動向					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復讐しておくこと					
評価方法	(1)授業の中で振り返りテストを10回程度行う、(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。											
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
	定期試験	◎	○				70%					
	小テスト	◎	○				20%					
	宿題・レポート											
	発表・作品				◎		10%					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞等を中心に社会的問題に常に関心を持ってください。</li> <li>・他の学生の学習環境を阻害する行為は禁止とします。</li> </ul>											

科目名	法学								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30	担当者	松永章生				
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年								
授業概要	権利擁護と成年後見制度について。憲法、行政法、民法の内容について簡単に説明する。そのうえで成年後見制度について説明をする。成年後見、保佐、補助が主な内容である。また、権利擁護に関わる機関、専門職の説明をする。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
		○				成年後見制度の前提となっている日本国憲法の原理を把握する。			
		○				行政法の基本を知る。			
		○				民法として後見制度がどう位置付けされているかを理解できる。			
		○				成年後見制度の内容を理解し、実務に生かすことができる。			
	○				専門職との関りを把握する。				
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 権利擁護と成年後見制度								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	日本国憲法の理解① 基本的人権							
	2	日本国憲法の理解② 国会・内閣							
	3	日本国憲法の理解③ 裁判所・憲法改正							
	4	行政法の理解① 行政行為・行政事件訴訟							
	5	行政法の理解② 行政不服申立制度・国家賠償法							
	6	民法の理解① 契約の種類と契約責任							
	7	民法の理解② 不法行為と損害賠償責任							
	8	民法の理解③ 親族法・相続法							
	9	成年後見制度① 成年後見							
	10	成年後見制度② 保佐・補助							
	11	成年後見制度③ 任意後見制度							
	12	成年後見制度④ 成年後見人等の義務と責任							
	13	日常生活自立支援事業							
	14	権利擁護に関わる組織・団体							
15	権利擁護に関わる専門職の役割								
評価方法	①授業の中で小テストとしてその日の授業内容をまとめる。②定期試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎					80%		
	小テスト	○					20%		
	宿題・レポート								
	発表・作品								
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ-①						
科目名(英)							
単位数	8	時間数	120	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。	
	○	○	○			卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク実践事例集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自分史作成①					
	2	卒業研究①					
	3	自分史作成②					
	4	卒業研究②					
	5	ハンセン病①					
	6	ハンセン病②					
	7	ハンセン病③					
	8	ハンセン病④					
	9	ハンセン病⑤					
	10	ハンセン病⑥					
	11	ハンセン病⑦					
	12	ハンセン病⑧					
	13	ハンセン病療養所 フィールドワーク1					
	14	ハンセン病療養所 フィールドワーク2					
15	ハンセン病療養所 フィールドワーク3						
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	8	時間数	120	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	目標		
		○	○	○	ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。		
		○	○	○	卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク実践事例集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	ハンセン病療養所 フィールドワーク4					
	17	自分史作成③					
	18	卒業研究③					
	19	自分史作成④					
	20	卒業研究④					
	21	自分史作成⑤					
	22	自分史作成⑥					
	23	卒業研究⑤					
	24	卒業研究⑥					
	25	卒業研究⑦					
	26	卒業研究⑧					
	27	卒業研究⑨					
	28	卒業研究⑩					
29	卒業研究⑪						
30	卒業研究⑫						
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ-③						
科目名(英)							
単位数	8	時間数	120	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。	
	○	○	○			卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク実践事例集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	31	九州の社会問題① 沖縄戦と後遺症1					
	32	九州の社会問題① 沖縄戦と後遺症2					
	33	卒研⑬					
	34	卒研⑭					
	35	卒研⑮					
	36	卒研⑯					
	37	卒研⑰					
	38	卒研⑱					
	39	卒研⑲					
	40	九州の社会問題② 水俣病事件1					
	41	九州の社会問題② 水俣病事件2					
	42	卒研⑳					
	43	卒研21					
	44	ドメスティック・バイオレンスの現実と支援1					
	45	ドメスティック・バイオレンスの現実と支援2					
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ-④						
科目名(英)							
単位数	8	時間数	120	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○	○		ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。	
		○	○	○		卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク実践事例集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	46	卒研22					
	47	卒研23					
	48	支援困難事例検討①					
	49	支援困難事例検討②					
	50	卒研24					
	51	卒研25					
	52	卒研26					
	53	卒研27					
	54	卒研28					
	55	卒研29					
	56	卒研30					
	57	卒研発表会準備①					
	58	卒研発表会準備②					
	59	卒研発表会①					
	60	卒研発表会②					
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉現場実習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	180時間	担当者	亀田尚		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	実習指導者による指導のもと、相談援助に係る知識と技術について实际的に学ぶ。3年次の8月に3日間、福祉事務所等の行政実習を行い、10月に20日間施設実習を実施する。合計で23日間180時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
		○	○	○		援助実習を通して、利用者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
		○		○		社会福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
		○		○		総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容・授業外学修指示					
	1	(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方など の、円滑な人間関係の形成を図る。					
	2	(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成を実施する。					
	3	(3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成を図る。					
	4	(4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価を行なう。					
	5	(5) 福祉・保健・医療に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践を理解する。					
	6	(6) 社会福祉士としての職業倫理と法的義務への理解する。					
	7	(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と、組織の一員としての役割と責任への理解する。					
	8	(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ。					
	9	(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と、具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ・ネットワーク・社会資源の活用・調整・開発に関する理解する。					
	10	(10) 相談援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出		○	○	○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	社会福祉現場実習指導Ⅱ①						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	前後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉現場実習指導Ⅰを土台として、相談援助技術の専門性を知識・技術・価値の側面から理解した上で、実践的な知識を更に滋養し、具体的かつ実践的な技術等を体得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					行政実習の目的・内容を理解する。	
	○					施設実習の目的・内容を理解する。	
		○				ソーシャルワーク実習をイメージでき、学びのポイントを理解できるようになる。	
				○		実習を振り返り、自分自身の課題を認識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	施設実習準備① 実習施設の発表・「施設実習 事前学習シート」の作成					
	2	施設実習準備② 「施設実習 事前学習シート」の作成・「実習生調査表」の作成					
	3	施設実習準備③ 行政実習準備① 「施設実習 事前学習シート」の作成・「実習生調査表」の完成					
	4	施設実習準備④ 行政実習準備② 「自己紹介表」の完成					
	5	施設実習準備⑤ グループ調べ学習					
	6	施設実習準備⑥ グループ調べ学習					
	7	施設実習準備⑦ グループ調べ学習					
	8	施設実習準備⑧ グループ調べ学習					
	9	施設実習準備⑨ 発表					
	10	施設実習準備⑩ 発表					
	11	行政実習準備⑤ 記録の綴じ作業・事前調べ学習					
	12	行政実習準備⑥ 記録の綴じ作業・事前調べ学習					
	13	施設実習の準備⑩ 実習計画書の作成 実習要綱・実習プログラム・先輩の実習計画書					
	14	施設実習の準備⑪ 実習計画書の作成					
15	施設実習の準備⑫ 実習計画書の作成						
評価方法	通常授業の発表・意欲・態度等を総合的に判断して評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	○	○		◎	○	100%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉現場実習指導Ⅱ②						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	前後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉現場実習指導Ⅰを土台として、相談援助技術の専門性を知識・技術・価値の側面から理解した上で、実践的な知識を更に滋養し、具体的かつ実践的な技術等を体得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					行政実習の目的・内容を理解する。	
	○					施設実習の目的・内容を理解する。	
		○				ソーシャルワーク実習をイメージでき、学びのポイントを理解できるようになる。	
				○		実習を振り返り、自分自身の課題を認識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	行政実習の注意事項					
	17	行政実習 お礼状・申し送り簿作成					
	18	施設実習 定期申請・腸内細菌検査					
	19	障害者施設の支援員の役割 <外部講師 >					
	20	実習の最終確認・注意事項 実習記録の書き方					
	21	実習前審査・事前訪問					
	22	実習前審査・事前訪問					
	23	高齢者施設の支援員の役割 <外部講師>					
	24	実習事後指導 お礼状・申し送り簿・実習報告書の作成1					
	25	実習事後指導 お礼状・申し送り簿・実習報告書の作成2					
	26	実習報告書の作成1					
	27	実習報告書の作成2					
	28	実習報告書の作成3					
29	実習報告会の準備						
30	実習報告会						
評価方法	通常授業の発表・意欲・態度等を総合的に判断して評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	○	○		◎	○	100%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	老人福祉論-①						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	棧原 弘司		
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待、地域移行、高齢者就労を含む)について理解させる、②高齢者福祉制度の発展過程について理解させる、③介護の概念や対象及びその理念等について理解させる、④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解させる、⑤終末期ケアの在り方(人間観、死生観を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					高齢者の生活実態について説明できる。	
	○	◎		○		高齢者を取り巻く社会情勢について説明できる。	
	◎					高齢者の福祉需要について説明できる。	
	◎					高齢者福祉制度の発展過程について説明できる。	
	◎					高齢者介護の概念・対象・理念について説明できる。	
	◎					高齢者介護過程における基本的な技法を説明できる。	
	○	◎		○		高齢者介護過程における基本的な技法を行うことができる。	
	◎					高齢者介護予防の基本的な考え方を説明できる。	
◎					終末期ケアの在り方について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	「高齢者に対する支援と介護保険制度」(中央法規出版株)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	高齢者の特性 一高齢者の総合的(社会的・身体的・精神的)理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	少子高齢社会と社会的問題 一少子高齢社会到来の背景・要因と高齢者を取り巻く諸問題(地域移行問題、高齢者就労問題)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	高齢者保健福祉の発展過程 一高齢者保健福祉制度の起源と生成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	高齢者保健福祉の発展過程 一高齢者保健福祉制度の発展			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	高齢者保健福祉制度の発展過程 一【演習】これからの高齢者像(高齢者年齢再定義化議論)についての具体的な検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	6	高齢者支援の関係法令 一高齢者保健福祉の法体系(老人福祉法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	高齢者支援の関係法令 一高齢者保健福祉の法体系(高齢者虐待防止法の概要)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	高齢者支援の関係法令 一高齢者保健福祉の法体系(高齢者医療確保法、高齢者住まい法等の概要)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	介護保険制度の基本的枠組み 一全体像及び目的・理念			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	介護保険制度の基本的枠組み 一財政及び主体(保険者と被保険者)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	介護保険制度の仕組み 一要介護(支援)認定プロセス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	介護保険制度の仕組み 一保険給付、介護報酬			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	介護保険制度の仕組み 一地域支援事業			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	介護保険制度の仕組み 一介護保険事業計画他			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	前期(第1回～14回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト			教科書の該当範囲の復習をしておくこと			
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を2回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
	発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	老人福祉論-②						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	棧原 弘司		
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく。①高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待、地域移行、高齢者就労を含む)について理解させる。②高齢者福祉制度の発展過程について理解させる。③介護の概念や対象及びその理念等について理解させる。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解させる。⑤終末期ケアの在り方(人間観、死生観を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	◎					高齢者の生活実態について説明できる。	
	○	◎		○		高齢者を取り巻く社会情勢について説明できる。	
	◎					高齢者の福祉需要について説明できる。	
	◎					高齢者福祉制度の発展過程について説明できる。	
	◎					高齢者介護の概念・対象・理念について説明できる。	
	◎					高齢者介護過程における基本的な技法を説明できる。	
	○	◎		○		高齢者介護過程における基本的な技法を行うことができる。	
	◎					高齢者介護予防の基本的な考え方を説明できる。	
◎					終末期ケアの在り方について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	「高齢者に対する支援と介護保険制度」(中央法規出版株)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	介護保険サービスの体系 一 居宅サービスと施設サービス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17	介護保険サービスの体系 一 介護予防サービス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	介護保険サービスの体系 一 地域密着型サービス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	高齢者を支援する組織と役割 一 行政機関、地域包括支援センター等			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	高齢者支援の方法と実際 一 連携と実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	高齢者を支える専門職の役割と実際 一 専門職倫理と多職種連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22	介護の概念や対象 一 介護の概念・理念・対象			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	介護予防の概念や対象 一 介護予防の概念・理念・対象			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	介護過程 一 概要、展開技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	自立に向けた介護(介護各論) 一 家事・整容・移動・食事・口腔衛生・入浴・清潔・排泄等各場面における自立支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	介護過程 一【演習】自立に向けた介護(退院に伴う在宅介護体制の構築)の具体的な検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	27	尊厳ある介護(介護各論) 一 認知症ケア			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	尊厳ある介護(介護各論) 一 終末期ケア			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
29	尊厳ある介護(介護各論) 一 住環境整備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
30	後期(第16回～29回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト			教科書の該当範囲の復習をしておくこと			
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を2回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
	発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						